

坂村家のアルバム

三姉の家

二十四年秋



三人の子に

梨恵子に

白い梨の花の咲く頃生まれ丸から梨
名高い梨壺の七歌仙にあやかして梨
十年間待つて待て生まれ丸お母丸から恵
それには母が八十八ヶ所を巡られ
生まれ丸お母丸から恵
梨恵子よ

一人の人間がこの世に生まれくる迄
どんなにいろいろの糸いつながっているか
お前もいつか

その因の恵を思ひ出す時もこよう

梨の花や
李の花が

一時に咲き匂う

いまは他國である

その生地をなつかしむ日もあろう
しかし何もかましまなくていい
人生を明るく歩いてゆくのだから
美しく生きてゆくのだから



三人の娘達に贈られた、色違いでおそろいの小さなアルバム

2019年冬号からこの巻頭ページを担当することになりました西澤真美子です。坂村真民の三女、年子の姉達から少し歳がはなれた末っ子という立ち位置からおわかりになるように、両親と過ごした時間が長い甘えん坊です。坊々と言うには程遠い七十歳になり、思いがけなく坂村家について考える機会をいただきました。

祖父祖母(坂村種司・夕子)から父・真民が引き継いだもの、その坂村真民を父とし久代を母として、娘達が相続した目に見えない財産のなんと多いことでしょうか。自由いっぱい育った中、しっかりと繋がっている両親の生き方・考え方に、大きな驚きと感謝を覚えつつ、紐解いてゆきたいと思います。

タイトルはこの両坂村家を指し、人物写真だけではなく、家庭にあるモノも登場するかもしれませんが、一枚の写真と一篇の真民詩(ときに数枚、数篇)から、坂村家の景色や空気感までも浮かび上がらせることが出来ればと願っています。

三人の娘達には、宝物箱のようなアルバムがあります。タテヨコ18cm×14cm、色違いでおそろいの小さなアルバム。私のそれは、記憶の先にある生後百日目の真美子で始まり、少しずつ記憶と共にある幼い真美子、小学校に上がる前の写真が最後です。

佐代子に

お前が生まれる時

ゆたしは一番くるしんでいた

どうして生きてゆくかどくるしんでいた

そのくるしみを誰か切り開いてくれる人を求めていた

お前が生まれた時

誦んでいたのは「區外の若者だ、た

お前の名は「安井夫人」の中から貰ったのだ

これと代(よ)の字はお前のお母さんの「字」でもあ

る

お母さんはお前を「おなかにいれて

くるしい」引き揚げをしてくた

まなはたすけると訓(な)ひ

この文字の意味を心(こ)めてはなうな

真美子に

母をどうしてから生まれてくる子の

いじらしさよ

老いさきも老えるようになって

生まれくる子の

いとわしさよ

お前にはゆたしの名を一つあげよう

何も子(こ)すものもない

金(かね)しいゆたしではあるが

つまづきばかりしている

愚(おろ)かなゆたしではあるが

ゆたしを父とよび

ゆたしを父としたい

生まれてきたお前の

何(なに)というあどけなさよ

ゆたしはお前(まへ)にゆたしの名を

一字(いちじ)つけておこう

ゆたしを書(か)きつた教(お)育(いく)の詩(うた)は

風(かぜ)のように散(ち)り失(う)せるわらうが

お前は大き(おほ)くなつて

ゆたしの思(おも)い出(で)の詩(うた)を

いくつか拾(ひろ)つてくいとわらう

真(ま)は訓(な)まこと

地(ち)い父(ちち)がたつた一つ守(まも)つてきた

その字(な)を負(お)うつて大き(おほ)くなつてくれ

心(こ)まじしい女(おんな)となり

まどなり(まど)となるように

ゆたしの願(ねが)いがこもっているのだ

添えられたペン文字から幼き者を愛おしく思う心が、そして「もう字も覚えた。考えることも出来る。さあ、ここからは自分の翼で飛んでごらん！」という父の声が聴こえてくるようです。

最初に紹介する写真は、愛媛県南予・三瓶町(現・西予市)の住居です。生後半年が過ぎた頃の一枚、ムカデやナメクジがでて、家には本当に何にも無かったという生活をしていたようですが、そんな中でも写真を残してくれた両親にただただ感謝するのみです。

初回ですので娘達の紹介を兼ねて、少し長いですが「三人の子に」の詩を載せることにしました。長女は朝鮮にて、次女は敗戦により引き揚げてきた熊本の実家で、そして職を求めて四国へと海を渡った愛媛で私は生まれました。子供達は生まれた土地の記憶がないままに、また次の地へと流れてゆきました。父は自分の事を「流浪の民」と、そして三人の子を「家なき子」と表現しました。これを知って読むと、詩がまた少し違って響くかもしれませぬ。

今回は、真民の戸籍名・昂(たかし)少年時代の坂村家の一枚から始めます。以後よろしくお付き合い下さいますようお願い申し上げます。

真民詩に手話をつけて唱和する子どもたち

酒井 智子 さん(67歳)



酒井智子さんが園長を務める佐賀県の「社会福祉法人こころの故郷小部保育園」では毎朝、ゼロ歳児から就学前の子どもたちおよそ140人が、「二度とない人生だから」を唱和しながら手話をする。真民さんが「日本一の園長さん」と称えた酒井智子さんは、真民詩に支えられながら独自の保育を展開してきた。

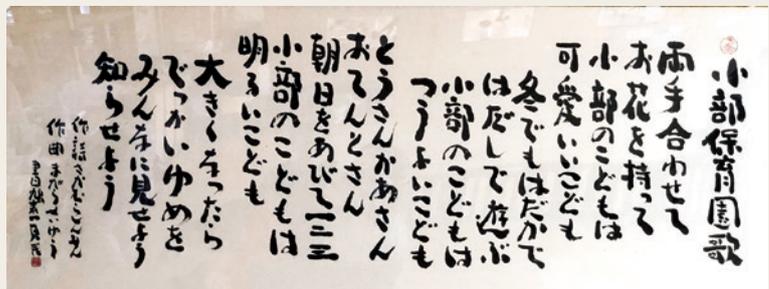


手話をつけて詩を唱和する園児たち。園庭には3基の詩碑がある

◆真民詩に愛を感じて
真民先生の詩と出合ったのは、30年以上前です。大阪の日本創造教育研究所で小原靖夫先生に心理学を学んだとき、「二度とない人生だから」の斉唱を手話つきで聞いたのですが、詩に深い愛を感じて、嗚咽を止められませんでした。

10人ほどでタンポポ堂を初めて訪ねた時の、坂村ご夫妻の慈愛にみちた笑顔が今でも忘れられません。開花亭での朴庵例会にもたびたび佐賀から出向きました。ご自宅にうかがうと、お別れの際は必ず私たちの姿が見えなくなるまで、門の外で見送ってくくださる。名誉も地位もない私たちへの思いやり。これも無言の教えです。穏やかで謙虚ながら、間違ったことには毅然とした態度をとられた。その姿勢に学ぶことが沢山ありました。

◆心を育てる保育活動
私の園では裸足と薄着による保育とともに、自然の偉大さや生き物の命の尊さを体感するため、園外保育を積極的に採り入れています。同じように子どもたちの心を豊かにするのが、手話つきの真民詩の唱和です。これは自分を見つめる大切な時間でもあり、詩を繰り返しながら唱和することで、詩に込められた願いが子どもたちの心にゆっくりと届いていきます。



真民作詞の園歌。詩碑の除幕式で接した園児たちの生き生きとした姿から詩が生まれた



「子どもたちと常に同じ方向を向いていた」という酒井さん

唱和を始めて30年以上になります。卒園児は中学や高校などでリーダーシップを取る子が多いようです。自分を冷静に見つめ、何が必要かを的確に見極めて行動できるからでしょう。

◆詩に支えられて
私の保育方針はときに批判されたり、異端視されたりしますが、そんな時、いつも私を支えてくれるのが「二道を行く」の詩です。

一道を行く者は孤独だ
だが前から呼んで下さる方があり
後ろから押して下さる方がある
自らの信念に基づいて一心にやっていたら、必ず支えてくれる人がいる。人としてどう生きるかをこの詩が教え、支えてくれたおかげで、ここまでやってこられました。今も真民先生は心の中にいて、人としてあるべき姿を示してくださっています。

坂村真民記念館開館8周年記念特別展

「鎌倉・円覚寺黄梅院の掲示板の詩 ～横田南嶺老師と坂村真民の心の交流～」展

●●● 開催のお知らせ ●●●



開催期間 2020年 2月22(土)～6月14日(日) 月曜日休館(祝日の場合は翌日)
入 場 料 / 一般600円(前売り券500円)、65歳以上・高・大学生500円(400円)、小・中学生400円(300円)



開館より8年を迎える今年は、鎌倉にある臨済宗円覚寺派本山円覚寺の横田南嶺管長と坂村真民との固く結ばれた絆から生まれた「黄梅院の掲示板の詩」を特集し、日本の仏教界でもっとも有名な禅僧の一人である横田南嶺老師がこよなく愛する「真民詩」を、横田管長直筆の書で鑑賞していただきます。

横田管長による記念講演会のお知らせ

- 日時 2月22日(土) 10:30～11:30
- 場所 砥部町商工会館
(記念館の斜め前)

入場無料 先着250名

西澤館長によるミニ講演会のお知らせ

- 日時 2月23日(日) 11:00～12:00
- 場所 記念館会議室

入場無料 先着50名

書物を丹念に読み解き 真民さんの真髓に触れる 日曜講座へのお誘い

毎月第3日曜(月によって変わりますので、ホームページ等で確認して下さい。)に開催される「日曜講座」をご存知でしょうか。

多くの方に真民さんのことを知っていただくため、真民さんの詩集や随筆集を丹念に読み込んでいく講座で、開館からほどない平成24年7月に開講されました。『自選坂村真民詩集』『随筆・念ずれば花ひらく』『随筆・愛の道しるべ』と読み継ぎ、現在は4冊目となる随筆集『めぐりあいのふしぎ』を読み進めています。

受講者が区切りのよいところまで朗読したのち、文中の重要な語句について、西澤館長から詳しい解説がなされます。

今年の7月例会で取り上げた「タンポポの根のごとく花のごとく」は5ページにおよぶ長い詩でした。「若い諸君よ タンポポの根のごとく 強い力で生き堪え タンポポの花のごとく 人生を美しく送ってくれ 給え」と結ばれる詩は、宇和島東高の卒業生に向けられた言葉であり、同書だけに収められた貴重な作品であることが、真美子さんによって明かされました。

後半には質問や感想を語り合う時間が用意されており、交流の場にもなっています。5月例会では東京から5人の受講者があり、松山観光の話で盛り上がりました。

当初からの受講者で、ボランティアガイドも務める



辻田寛さんは、「館長さんの解説と、真美子さんの親族ならではのお話で、回を重ねるごとに、真民さんの姿が間近に見え、学びが深まる思いです」。「一人では学べない、本だけでは味わえないこともあり、私の知らない真民先生を知ることが楽しい」と、同じく受講者の梶川満智子さんの声も寄せられています。

受講日の一週間前までに申し込みをすればどなたでも、また1回ごとの完結ですので、いつでも受講できます。ぜひ、日曜講座にお越しください。

日曜講座の受講を希望される方は、お電話またはFAXで以下の項目を、受講日の1週間前までにご連絡して下さい。

〈必要事項〉
①氏名 ②住所 ③電話番号 ④受講を希望する講座名
⑤受講を希望する日 ⑥年齢 ⑦性別
〈電話〉089-969-3643 〈FAX〉089-969-3644

新刊発売のお知らせ

西澤孝一館長が編集した『坂村真民箴言詩集 天を仰いで』(1430円)が11月18日に致知出版社から全国発売されました。

坂村真民は、いつも自分に向けて「この生き方でいいのか」と問いながら生きて、その答えを「箴言詩」として書き残しています。この本は、そういう「真民の生き方」をもっとよく表している「箴言詩」の中から代表的なものを87篇集めた詩集です。悲しいときや苦しいときに、この本を読むと何故か心が休まり、自分を冷静に見つめ、そして「これではいかん。もう少し頑張ってみるか」と思う気持ちが湧いてきます。坂村真民の「自分を厳しく戒め、そこから、前に向かって生

きようとする姿」に励まされ、生きる希望を感じさせてくれるからです。

坂村真民は、自分を厳しく戒めても、いつも「前向きに生きること」を考え、「生きる希望」を持ち続けて生きてきました。そういう「自らを励ます詩」もこの本の中には多数掲載されています。

どうぞ、少しでも多くの人に薦めてください。

アマゾン、全国の書店で好評発売中です。



坂村真民記念館を応援しています



経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする



株式会社 **クリオ** ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

株式会社 **宣翔物産**
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り
千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院





To-be
supported by tobe hospital

介護付有料老人ホーム **To-be**
78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
18居室/2LDK 40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院横) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

筆の詩墨の花
詩墨集
●定価=本体 3500円+税

念ずれば花ひらく
随筆集
●定価=本体 1800円+税



いま届けたい、生き方の道しるべ

念ずれば花ひらく
詩集
●定価=本体各1000円+税

宇宙のまなざし
詩集

二度とない人生だから
詩集

サンマーク出版
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
<http://www.sunmark.co.jp>



新潟県／歯科 12 院

医療は 人なり

徳真会グループの想い

徳真会グループは、1981年新潟県の旧新津市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といったどこにもある様な歯科医院からスタートし、以来39年間、常に患者さま本意の歯科医療のあり方を追求し続けています。また、国会依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを行ってききました。

現在、年間80万人の患者さまにご来院頂く、世界最大級の歯科医療グループとなっておりますが、時代先駆の組織創りへの挑戦はまだまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に 32 医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ

Q 検索



www.tokushinkai.or.jp

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典 会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

〈編集後記〉

記念館の木の木もすっかり葉を落としました。裸木の厳しい姿にも美を見出し、「冬の子しんみん」と自分を鼓舞した真民です。その気概をもって冬に向いたいと思います。「若者たちに贈る真民詩」展には、心成し若い方の来館者が多く喜んでいました。

さて、新しい風が吹いたでしょうか。(真美子)

タンポポだより vol.31 冬号

令和元年12月1日発行
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)
休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり